

令和3年度第1回北広島市立小学校及び中学校通学区域審議会 会議録

日 時	令和3年11月18日（木）18:00～19:00
会 場	市役所3階 3D会議室
出席委員	常田委員、西崎委員、岩本委員、西村委員、本間委員、辻村委員、本宮委員、富士原委員、松本委員、若林委員、佐々木委員、舟崎委員、嘉屋委員、佐藤委員
欠席委員	なし
市出席者	【教育委員会】千葉教育部長、後藤教育部理事、下野教育総務課長、花田学校教育課長、富田小中一貫・教育施策推進課長、澤井主査、佐藤主事

1 開会

2 委嘱状の交付

千葉教育部長から委嘱状を交付

3 会議の成立

委員の過半数が出席していることから、委員会が成立していることを事務局から報告

4 挨拶

千葉教育部長から挨拶

5 自己紹介

6 役員の選出

事務局から、会長に常田委員、副会長に西崎委員とする案を提案し、承認された。

7 諮問

千葉教育部長から会長に諮問

8 議事

(1) 審議会の運営について

事務局から、審議会の公開及び会議録の公開方法について説明
会長から、会議録署名委員を佐々木委員に指名

(2) 今までの審議経過について

事務局から、審議会のこれまでの審議経過を説明

(3) 資料のデータ更新について

事務局から資料に基づき説明

(4) 調査・審議の観点について

事務局から、特に次の3つの観点による調査・審議とすることについて提案

○現状で「北広島市立小学校及び中学校の適正規模に関する基本方針」（以下「基本方針」という。）に定めた学級規模の基準（適正規模の基準）に満たない学校のある地区について、まずは調査するというところでよろしいか

○基本方針は、同一学校種、つまり小学校同士、中学校同士による適正規模化を検討する基準を定めたものとなっているが、新たな学校種である「義務教育学校」の可能性があるかないかを含めて検討することよろしいか

○仮に義務教育学校の可能性を検討の観点として含めた場合、本審議会の所掌事務、つまり通学区域の設定および変更、その可否を判断するための調査審議に収まらない可能性があるのではないかという検討をしていただいてよろしいか

(5) 質問・協議

【A委員】

高台小学校と緑陽小学校、若葉小学校と広葉小学校が統合して10年以上が経過しているが、北広島団地地区の学校の小規模化が10年前と同じように進んでいる。

この10年の間、市や教育委員会は対策を行ってきたのか。

【事務局】

市としては、子育て世代の定住促進などを図るため、「子育て世代マイホーム購入サポート」などの施策を行ってきており、令和3年度から令和4年度にかけては団地地区の児童生徒数の一部増加も見られるが、全国的な出生数の減少傾向の中での、今後の推計における本市の児童生徒数の減少に歯止めがかかっていないのが現状である。

【A委員】

住みよい環境を求めて、新しい子育て世代が入ってきているのに、また学校が遠いところになってしまうのかと思う保護者や地域の方の声もあると思う。

こうした声があることを今後の調査・審議していく上での意見としたい。

【B委員】

資料を見て、思った以上に児童生徒数の減少が進んでいて、喫緊の課題と感じた。

子どもたちのよりよい教育環境を考えていくのが重要と思うが、保護者や地域の考えもしっかり聞き、情報公開しながらこの審議会で調査・審議していくことが必要だと感じた。

(6) 次回審議会の開催について

事務局から、次回に審議会を12月中旬に開催したい旨説明

(7) その他

なし

9 閉会

会議録署名委員

佐々木 めぐみ